



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小合信也
東京都文京区後楽1-7-12
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

令和2年度第2回木材需給会議

林野庁は、令和2年9月28日(月曜日)に「令和2年度第2回木材需給会議」を開催し、「主要木材の需給見通し(令和2年第4四半期及び令和3年第1四半期)」を策定・公表した。概要は以下のとおり。

I. 見通しの要点

1. 令和2年第4四半期(10~12月)の需給は、製材用国産材丸太、合板用国産材丸太、輸入丸太、輸入製材品、国内製造合板、輸入合板、国内製造構造用集成材は前年同期比で減少、輸入構造用集成材は前年同期比で増加する見通し。

2. 令和3年第1四半期(1~3月)の需給は、概ね令和2年第4四半期より増加する見通し。製材用国産材丸太、合板用国産材丸太、輸入丸太、国内製造合板、輸入合板、国内製造構造用集成材は前年同期比で減少、輸入構造用集成材は前年同期比で増加する見通し。

II 資料の概要(抄)

1. 一般経済の動向
2020年4~6月期実質GDP成長

主要木材の入荷量等の概要

(単位:千m³,%) (括弧内は前年比又は前年同期比)

Table with columns for Domestic Roundwood, Plywood, and Structural Laminated Wood, subdivided into Domestic Production and Imports. Rows include 29th year actuals, 30th year actuals, 31st year forecasts, and quarterly data for 2020 and 2021.

資料:「主要木材の需給見通し」

率(2次速報)は、前期比△7.9%(年率換算△28.1%)と戦後最悪のマイナス成長記録。コロナ感染拡大の影響を受け内外需要の急速な冷え込みが原因、中でも個人消費と輸出の落ち込み大。緊急事態宣言の解除後は、経済活動再開の動

き広がり、足元の景気はすでに最悪期を脱し個人消費や輸出中心に持ち直しの動きみられ、7~9月期実質GDP成長率は、前期比+3.6%(年率換算+15.1%)と4四半期ぶりにプラスに転じる見込み。設備投資の減少が続くが、外食、旅行、レジャー関連への支出回復し、特別定額給付金の支給など政策効果もあり個人消費は持ち直す。中国はじめ海外での経済活動再開や、世界的なIT関連需要回復で輸出は底打ち。感染拡大防止と経済活動再開の両立図る中、景気回復は緩やかなペースにとどまる見込み、年度後半もプラス成長維持するも、2020

年度通年の実質GDP成長率は前年比△6.0%と戦後最悪のマイナス幅更新。景気下振れリスクも依然として大。増加していた感染者数は足元で減少に転じているが、収束した訳ではない。今後の感染状況次第で、消費者マインド悪化、自粛要請の強化などによる経済活動の抑制、企業の倒産、事業からの撤退、店舗閉鎖による雇用・所得環境の悪化などの動き強まり、年度後半の景気回復ペースが急速に鈍化する懸念も。新興国中心に感染拡大収まらず、世界経済の回復遅れることも懸念材料。2021年度は感染拡大による経済活動への制約徐々に薄らいでくるうえに、東京オリ・パラの開催によるイベント効果の押し上げや5Gの本格的普及が進むこと、世界経済が本格的に立ち直ることなどを背景に、景気の持ち直し続く。東京オリ・パラ開催後にイベント効果の剥落で景気弱含む局面があっても軽微にとどまり、年度での実質GDP成長率は前年比+3.7%と伸び率急速に高まると予想も、コロナ感染拡大前の水準(2019年10~12月期)まで回復するのは2022年度にずれ込む見込み。

2. 住宅着工見通し
住宅着工戸数は、月次で見ると全体で2019年後半から米中貿易摩擦による景気の減速等により、季節調整済年率換算値で90万戸を下回る水準に低下、2020年4月からは、更にコロナの影響が強まったと見られ、年率80万戸前後で推移。2020年4月から7月の住宅着工戸数の累計は前年同期比12.3%減。利用関係別の内訳は、持家、貸家、分譲一

戸建て大幅減少、分譲マンションはわずかに減少。持家、貸家、分譲一戸建てでは、4月に出生された緊急事態宣言を受け、営業の自粛、住宅展示場への来店者数減少等により受注が減少したことが大きく影響と考えられる。分譲マンションは着工までの準備期間等長く、コスト面からもスケジュール通りに建設する必要があること等から減少幅は小さかった。受注状況も2020年7月の住宅生産団体連合会による景況判断指数(受注実績)は、持家、貸家共に非常に厳しい結果も、7・9月の先の見通しは、多少改善が見込まれる。2020年4・6月期のGDP一次速報に基づくシンクタンクの前測では、2020年度の住宅着工戸数は平均78・4万戸と前回(78・8万戸)とほぼ横ばい。

3. 木質バイオマスの動向
2020年度第1四半期(2020年4・6月)のバイオマス発電所の燃料調達量は、調査対象発電所増加もあり、ほとんどの種類の燃料において前年同期より増加。未利用木質は約45・7万絶乾トン(前年同期比133%)、一般木質は36・8万絶乾トン(同118%)、PKSは21・7万絶乾トン(同190%)。燃料調達量の内訳は、未利用木質43%、一般木質が53%と前年度とほぼ同率。燃料材価格は、未利用木質の針葉樹チップ価格は横ばいであったものがわずかに低下、一般木質の針葉樹チップ価格は横ばいであることがわかった。地域によって差異があることに留意する必要がある。未利用木質バイオマス発電所のFIT認定容量は増加し、うち容量ベース

の導入済み割合は73%相当。令和2年度に運転開始を予定の発電所のうち燃料内訳が確認出来たものでは海外燃料が100万トン、未利用材が21万トン。内訳が明らかでないものも少なくなく、地域により今後も未利用材の需要増が想定。発電所は運転継続を要請され、燃料材調達量・価格は一定期間固定されており、需要には新型コロナウイルスの影響は及びにくいと考えられる。

4. 木材輸出の動向
2020年1月から7月までの輸出量は、丸太は80万m³で前年比10・9%増、製材は9万2千m³で3・2%増、合板は5万5千m³で22・5%減。輸出総額は100億円の前年比7・6%の減。国別は、中国が91億円(6・8%減)で輸出総額の47・3%、フィリピン34億円(26・4%減)、韓国18億円(0・2%増)、米国17億円(14・5%増)。中国については、昨年来の欧州虫害木大量輸入による価格低下の影響が未だ残っているほかコロナの影響も加わり1・3月の輸出量の減少大も、4月以降、中国国内製材工場の稼働率が回復してきたこと等、前年を上回るペースでの輸出量に回復。米国は、当初まで高水準であった住宅着工戸数は、コロナの影響により4月を底に落ち込むも、その後大きく回復し、日本からのスギフェンス材輸出も、好調に推移。

5. 国産材丸太(製材用)の需要動向
2020年第2四半期実績は、川下需要側は、4・5月の緊急事態宣言を除き、納期に間に合わせるための工事続き、プレカットを含め予想ほどの落ち込みは見られず、公共工事等についても継続、工

事資材の需要は確保されていると考えられ、前年同期比減。第3四半期は建築需要について、オリ・パラ東京大会前までに竣工予定物件等はほぼ工事終了、注文住宅等は、今後、コロナの影響で受注活動が十分に出来なかつた影響が出ると思われ、前年同期比で減少、第4四半期以降は製品の在庫が減少、コロナの新規感染者数が現状の状況続き、各種イベント等の再開が開始されば、春の受注減を取り戻すことを期待、前年同期比では減少の見込み・見通し。原木供給は、価格低下、西日本の豪雨や台風の影響等から、地域により出材意欲減退見られ、地域間の差が徐々に大きくなっていると考えられる。中国向け輸出順調に続く一方、国内の大型製材工場、合板工場等の受け入れ制限等で行き場のない原木の滞留が続く、特徴的な川下の動きとして、夏休みの期間縮小に伴う学校改修工事、リモートワークの普及・定着による都市部オフィス需要減からの改修・内装工事等は減少の一方、ホームセンター等の木材製品売り上げは伸びている等の声も。

6. 国産材丸太(合板用)の需要動向
2020年第2四半期実績はコロナの影響による景況悪化で、合板各メーカーが減産体制をとり、丸太の受入れ制限され、前年同期比減。第3四半期はコロナの影響継続により引き続き生産調整を行うメーカーもあり、前年同期比減、第4四半期も前期と同様の要因により、前年同期比減、2021年第1四半期は徐々にコロナの影響の緩和を期待し、前期より需要増を見込み、前年同期比減の見込み・見通し。

7. 木材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向
(1) 木材製材品の供給 2020年第2四半期実績は米ツガ製品が大手サプライヤーのストライキ解消により生産再開され入荷が増、米マツは生産・出荷遅れによる入荷減、SPFはオリピック開催による荷役等の混乱想定し、一部入荷が前倒しされ入荷増、全体では前期比で増、前年同期比減少。第3四半期はコロナの影響を含んだ需要減を踏まえ契約量が減少、前期比、前年同期比共減少見込み。第4四半期は第4四半期契約の10・11月積は、好調な北米市場の影響で日本向け価格も高騰、日本国内の住宅着工減と合わせ、契約量減少すると予想、前年同期比減少、2021年第1四半期は北米市場も落ち着き、現地価格も和らいでくると想定される一方、年度末に向けた在庫調整等の季節要因により契約量・入荷量は低水準と予想、前期比減も、2020年第1四半期は大手サプライヤーのストライキ等により入荷が大きく減少していたことから、前年同期比微増の見通し。

(2) 欧州材製材品の供給 2020年第2四半期実績はフィンランド企業のストライキにより入港量減と予想も、スウェーデンからの入港量が増加、フィンランドもひと月遅れながら入港量戻ったが、結果的に前期比増加、前年同期比で減少。第3四半期は北欧からの原材料(ラミナ、原板等)は4・5月契約の生産遅れ分が7月・8月に十分に入るが、9月は現地夏休みの関

係で入港量は減少、中欧からの建築材(羽柄材等)は7/8月積みの契約数量減により、9月入港は少ないと予測、前期比、前年同期比共減の見込み。第4四半期はコロナによる荷動き低下の影響を受け契約数量が減少した第3四半期契約分の入港時期、建築材、原材料共入港数量は少ないと予測、前年同期比減、2021年第1四半期は建築材では国内在庫も適正レベルに近づき、11/12月の契約量は回復と予想、原材料の契約も通常レベルを想定、ほぼ前年同期並の見通し。

(3) 北洋材製材品の供給 2020年第2四半期実績は第1四半期に引き続き、現地サプライヤー各社順調に生産・出荷も、コロナの影響や港頭在庫増加により2/4月頃の新規契約が少なく、前期比、前年同期比共減少。第3四半期は第1、第2四半期順調に入荷も、国内需要低迷のため、8月末国内在庫が関東では半年分まで増加、流通各社は6月以降の新規契約大幅に減らし、現地在夏場に入り丸太出材が減少し工場での生産量も低下し、大きく入港減少、前期比、前年同期比共減少見込み。第4四半期は前同様理由により、当面入荷量減少と予想、前年同期比減、2021年第1四半期は国内在庫減少し徐々に新規契約量増加、入港量もすこしずつ上向くが、入港順調であった昨年レベルまでは届かないと予想、前期比増も、前年同期比減少の見通し。

(4) 輸入構造用集成材の供給 2020年第2四半期実績はフィンランドで

の2月、3月のストライキによる生産減少とコロナの影響によるコンテナ不足により入港が遅れた分が第2四半期に入港、第2四半期の成約量が増加し、6月より入港が増加した結果、前期比、前年同期比共増加。第3四半期は第2四半期の成約量が増加し、入荷量も増加と予測、前期比、前年同期比共増加の見込み。第4四半期は第2四半期の受注量多く、第3四半期契約量は減少、10-12月の入荷は減少と予測、前期比減少も、前年同期比増、2021年第1四半期は既契約分の船積遅れの解消に時間かかるも、2020年第4四半期の契約量は第3四半期からは戻ると予想、ストライキの影響等受けた前年同期より増加の見通し。

8. 南洋材製材品需要動向 2020年第2四半期実績はコロナの影響により緊急事態宣言が発令、営業活動等が抑制されたが、建設現場の作業は継続し、実需に大きな変化見られず、前期比増、前年同期比も若干増加。第3四半期は緊急事態宣言が解除され、徐々に営業活動が再開も、夏期に多い学校関係の改修工事や商業施設の内装工事は中止や延期となり実需減、需要は前期比、前年同期比共若干減少の見込み。第4四半期はコロナの影響により店舗、商業施設関係は厳しい状況で収益の上がらない先が多く、設備等への投資も難しいと予想、前期比、前年同期比共減少、2021年第1四半期はコロナの影響により遅れていた改修工事等の物件に期待し、前期並みの需要を見込む。前年はオリンピック関連の先取りが見られ大幅に減少した期

で、前年同期比増加の見通し。
9. 国産、輸入合板の需要動向 (1) 国内製造合板の需要 2020年第2四半期実績はコロナの影響により、住宅部品生産の遅れからの工期遅れや契約キャンセルも加わり、予想を超える大幅需要減。第3四半期の国内針葉樹合板は、8月末から荷動き回復傾向、単価下げ止まっているが反転する勢いには至らず、前期比並み、前年同期比大幅減の見込み。第4四半期は現在の供給側の減産計画の動向が読みづらいが単価下げ止まり、減産による品薄アイテム出現状況から値戻しタイミングとしてはチャンス、長引く当用買いの状況でプレカット工場等では手持ち在庫量減少進み、買い姿勢につながる可能性もあると予測、前期より回復するも前年同期比減、2021年第1四半期はプレカット工場等の手持ち在庫の減少により、需要すくなく回復することを期待するも、劇的な増加は見込めず前年同期比減少の見通し。

(2) 輸入合板の需要 2020年第2四半期実績は当用買い中心の需要、稼働再開したマレーシア現地工場も通常生産にはほど遠い状況、前期比、前年同期比共減少。第3四半期は入荷量は大幅減少も、需要家に大きな反応見られず、港頭在庫減少し一部品薄アイテム散見されてもトラブルなく、秋需に向け現場進行しているものの需要量に大きな変化なく、前期比、前年同期比共減少の見込み。第4四半期は秋需進行すると塗装型枠合板の引き合い増加予想されるが、現地マレーシア、イン

ドネシアは生産停止している工場も増加し、供給不安残る、単価は大きな供給トラブルに発展しない限り値戻しに向かうのは難しい、前期並みで前年同期比減少、2021年第1四半期は輸入合板から国内合板や他材料に転換したアイテムが元に戻ると考えにくく、供給量を維持してきた塗装型枠合板も、単価や環境スベックへの対応はシッパリーにおいては厳しい状況、前年同期比減少の見通し。

10. 国内製造合板供給

2020年第2四半期実績はコロナの影響による合板需要の減少、価格の低下等景況悪化により合板各メーカーが1/3割減産し需給調整を行い、前年同期比15%程度減少。第3四半期もコロナの影響は継続と予想、引き続き生産調整を行うメーカーもあり前年同期比減少見込み。第4四半期も前同様動き、前年同期比減少、2021年第1四半期は徐々にコロナの影響緩和されることを期待も、前年同期比減少の見通し。需要の動向により、不足が生じるようならいつでも増産出来るように体制を整えている。

■第48回JAS製材品展示会

・丸宇木材市売(株) 北浜市場
10月8日(木)に丸宇木材市売(株)北浜市場(押本雅壽社長、埼玉県)でJAS製材品展示会が開催された。7日(水)の審査会には、9社から53mの製品が出品され、信田 聡審査委員長ほか審査員が厳正に審査した結果、100点

が5社となった。8日の展示即売会には、主催者を代表して、全木連の肥後賢輔参与が出席し、JAS制度の意義や普及への協力要請を行った。また、開催市場の押本社長も出席した式典の後、JAS製材品等の競りが行われ、活況を呈した。



「審査会の様子」

■吉野農林水産委員長東木市場視察等

1. 令和2年10月15日(木) 午前に吉野正芳衆議院農林水産委員長・都市木造化協議会長(衆議院・福島5区)が、東京木材市場(株)(市川英治社長)を視察し、関係者との意見交換等を行った。都市木造化推進等のため、首都圏の木材流通の現状等について理解を深める目的。意見交換に先立ち、市川社長の説明で林場に並ぶ製材品を興味深げに視察され、吉野委員長からは、林場に並ぶ製材品についての質問の他、委員長の地元産材等が話題となった。

2. 第65回全国優良木材展示会(於…東



「林場の視察」



「市場会議室での懇談」

京木材市場(株)
東京都木材団体連合会(渡辺 昭会長)と東京木材市場協会(市川英治会長)は10月1日(木)に、東京木材市場株式会社(市川英治社長)において全国優良木材展示会を開催した。前日9月30日(水)に行われた審査会において、出品された13社185㎡の製材品について「寸法、

技術、表示・結束、乾燥、出荷実績」などの項目毎に、減点方式で審査した。審査結果は、以下のとおりで、受賞者に賞状が授与された。①都知事賞・(株)ウツデー・コイケ(埼玉県) ②産業労働局長賞・影山木材(株)、香澤製材所(株)、協和木材(株)、東北木材(株)、(有)老川賢吉商店③都木連会長賞・二宮木材(株)、厚沢部林産工業(株)、(株)東部産業、(有)関野材木店、本宮木材(株)

■林野庁10月付け人事異動

(抄)

・(木材利用課情報分析官)↑岡井芳樹(茨城署長) ↑木村 穰(林野庁森林整備部付)・(庁計画課情報分析官)↑竹中篤史(和歌山署長) ↑渡辺達也(庁木材産業課付)・(三八上北署長)↑葛西貴仁(東北局経理課長)・(庁木材産業課素材生産推進官)↑藤本達也(庁木材産業課付)

■木アド講習会参加者募集

木材アドバイザー養成講習会(日本建築士会連合会CPD認定プログラム)を開催します。皆様のご参加をお待ちします(コロナのため東京でのみ定員20名程度を予定)。

(東京会場) 令和3年2月12日(金)
9:30~17:20、2月13日(土) 9:00~15:40(於)東京木材会館(江東区新木場1丁目18-8) 受講料は、25,000円(受講料、テキスト代等を含む)(問合先) 全日本木材市場連盟 文京区後楽1-7-12 林友ビル TEL03-3818-1812 FAX03-3818-1818 申し込み受付は12月1日以降。

雑記帳

縄文時代、クリが建築材や食料として利用されていたことを以前書いた。古代人が食料として利用した木の実、クリだけに止まらず、クルミ、トチ及び多くの種類のどんぐり(ブナ科の堅果)など多岐にわたっていたようである。青森県の亀ヶ岡遺跡の花粉分析から縄文時代温暖期はクリ、寒冷期にはトチノキを半栽培(放置的な栽培、野生植物の移植、野生植物への手入れなどを表す概念)していたことが判っている。縄文の遺跡から、磨石など木の実を加工して食料とするための道具が多く出土し、縄文人の生活を木の実が支えていたという。現代でもクリ、クルミが広く食べられ、トチ餅、地域によってはどんぐりも食べられている。しかしトチやどんぐりの多くは、アク(トチの実には有毒のサポニンやアロインが、ドンダリにはタンニンが含まれている)抜きをしないと食べられない。どんぐり類のアクは1週間以上水にさらすとアクが抜け、加熱すると効率的にアク抜きができる。トチはアク抜きに灰が用いられたようである。縄文土器はそのために発達したという説もある。縄文の人々は、試行錯誤と経験によってアク抜きの技術を開発し、川にアク抜きのための施設を作り、土器を使って本来食べられない木の実まで食料として利用し、縄文文化を持続させた。木の実、アク抜き施設の材料、土器焼成の燃料これ全て、周囲の樹木の利用である。現代日本人の全遺伝情報10%(~70%)程度が縄文の御先祖から受け継いでいるとの最近の研究がある。